

## 平成 28 年度 第 2 回宇治市公共施設等総合管理計画検討委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 8 月 28 日（日）14 時～16 時

場 所：市役所 8 階 大会議室

出席者：委員 12 名 事務局等 11 名

傍聴 9 名 報道関係者 3 名

### 1. はじめに

### 2. 議題

#### ①市民アンケート調査結果について

・配布資料に基づき説明

<質疑応答>

委員長：ただいまの説明について、何かご質問、ご意見ありますでしょうか。

委 員：アンケートの配布数 3,000 に対して回答数が 749 とありますが、これで市民の意見を反映したといえるのでしょうか。

事務局：統計学的には 380 件ほどあれば市民の意見としては十分に反映されており、今回は約 750 件ありますので市民の意見が反映されていると考えています。

委 員：アンケート回答者の年齢構成ですが、人口割合からいっても、高齢の方のアンケート回答が非常に高く、働く世代やそれ以下の世代の回答は少なかったと思います。このままで問題はないのですか。

事務局：アンケートは、すべての年代を 10 年区切りにして均等に送付しています。その中でも、結果として高齢者の回答率が高くなっているのです。若い人についてはアンケート以外のところで聞き取りなどができればと考えています。

委 員：小学校区ごとの統計はあるのですか。

事務局：市民アンケート調査結果（資料 1）におきまして、小学区ごとのアンケート回答数は出しています。

委 員：回答率 25%ですべてを押し量るのはいささかどうかと思われま。榎島地区は不便な場所です。六地藏は遠方です。また、回収数が少ないのは市民の関心が低いからではないか。今後何か対応を考えているのでしょうか。

市役所を中心として街が構成されるのは当然ですが、ドーナツのように外に目を向ける必要があるのではないのでしょうか。また、市民への説明としての第 2 弾を何か考えていますか。市民の関心がちょっと低いのではないのでしょうか。

事務局：アンケートの回答率は低かったため、市民への出前講座も検討して市民の意見を聞く必要もあるかと考えています。

委 員：279 施設の中に職員会館が入っていませんが、これについては意図的なものがあるのでしょうか。

事務局：職員会館は共済施設であり、市の施設ではないので公共施設等総合管理計画では抜いています。

委員：行政がされたアンケートにしては回答率が高いのではないかと感じました。最も大きい関心事である国政選挙でも40%程度を考えれば、高いのではないのでしょうか。

このアンケートだけですべてを決めることはないと考えられるので、市民の方に意見を聞く機会を作るべきであると考えます。

50%近くの方が総量を減らすべきであるという一方で、25%の方が維持すべき・増やすべきと考えていることも考慮しないといけないのではないのでしょうか。

アンケートそのものが、宇治市が保有している全施設となっているので、種類別に必要なもの、例えばアンケートの回答にもありますが、高齢者施設や子育て施設は今後も必要だから増やすべきだとの意見があり、保育所についても同様の意見がありました。そのとおりだと思いますが、公共でやるかどうか、一律ですべてやるべきかについては様々な議論があると思います。民間の力を使う。保育所はほとんどが民営の保育所だと思うので、すべて公立で賄うのかという議論も当然出てくると思います。

共済施設については、確かに税金は入っていますが、そうすると補助金で建てた施設はすべてカウントすることになるので現実的に不可能です。保育所も補助金という形で税金が入っています。それと共済施設は並びで考えざるを得ないのではないかと思います。

委員：公共施設等総合管理計画は建築物だけを議論しているわけではなく、土木建築物も含めて考えないといけない。大きな話です。総合管理計画を策定するに当たっては、20年30年先を考えるので小学生や中学生にも意見を聞かないといけないのではないのでしょうか。他自治体ではインターネットで調査をかけていくことを考えているところもあります。官民連携も議論できればいいと思います。

委員：回答率は意外と高いなと感じています。市民の方の理解・関心の高さが分かりました。自由意見は幅広い意見があって面白く、高齢者も次の世代のための意見が入っています。

若い方の回答数が少ないが問題ないのか。回答者の割合が高齢者に偏っているので、インターネットなどを活用して若年層の意見も吸い上げればいいのではないのでしょうか。

委員：小中高校生や大学生、というところをピンポイントにした方法も考えればいいのではないのでしょうか。今の宇治市と将来を考えるためにも必要ではないのでしょうか。未来を担うのは子どもたちです。そのあたりを見据えて活動して欲しい。

委員：施設があることを知らない、もっとPRをして欲しい、ということから、宇治市にどういう施設があって、どういう活動をしているのかという生の声を聞いて欲しい。その上で、統合すべきや残すべきという事を各家庭でも議論していけるようになっていけばいいのではないのでしょうか。

委員：全体としての大まかな傾向が確認できたと思います。これらの施設について利用度を出してもらうようお願いしています。個別のプランをつくる時にこのアンケートをどう活用するのか。個別の利用実績や財政の面から個別計画をどう立てるか。若い世代当事者の意向も把握できればよいと思います。

事務局：利用実績については各施設の利用状況を集約しているところです。また、施設の種類ごとに維持管理コストなどを横断的に比較していくコストの分析資料も準備しているので、それらを踏まえながら個別に今後どうしていくかを検討したいと考えています。また、要望的な面では、若い方は宇治市の資産であり、財政を担うのは若い世代の方なので、高校生や大学生を対象にわかりやすく説明しながら意見を伺いたいと思っています。

委員長：個別施設計画の見通しや総合管理計画との関係、今後どうされるのか、説明をお願いします。

事務局：前回に計画の体系をお示ししたが、個別施設の管理計画は時期的には平成 29 年度以降となります。議論をいただいて公共施設等総合管理計画を策定し、総合的な基本方針や類型別のコスト分析も考えていますので、施設ごとの数値目標についても議論をいただきたいと思っています。今年度中を目標に策定したいと思っています。それが基本的な方針になります。

個別施設の方向性を示す個別施設管理計画については、施設の建築年度によって更新時期が異なり 10 年先の施設もあれば、20 年先、30 年先の施設もあります。更新の際に多大な費用が必要となりますが、そのタイミングは個別ごとに異なるので更新時期を踏まえ、庁内各部局と連携して方向性をお示ししたいと考えています。

委員：アンケートの評価について、回収率 25%は統計学的には活用可能ですが、行政のアンケートでは必ずしも高いとはいえないのでは。ただし自由意見がこれだけ多いことは意味があります。自由意見を読んだ感想としては身近な施設を念頭に置いたものとなっているのではないのでしょうか。もっと大きな傾向が必要であったと思います。

一つ一つの意見の語尾が「～してもらいたい」になっています。これからは行政と市民が一体となって考えていくべきと考えますが、行政の問題を検討する際に、これまで一緒に考える機会がなかったのか。両者のコミュニケーションが不足していたのではないかと思います。まちの人たちとじっくり議論していくことが必要です。そのために情報の出し方や関わり方を考える必要があります。当面は全体的に大きな方向性を考えることが大事です。傾向として縮減が大きいですが、残った施設をどうするのかを議論していくことが大事です。

委員：各担当施設に対して統計的な資料を考えているとのことと心待ちにしています。なぜならば、担当課だけが悩むことなく、宇治市には 60 部局あるので、それが一体となって宇治市の施設を考えるベースになると考えています。

もう 1 点、第 1 回目のときに、今回のアンケートだけではなく他部門のアンケー

トも利用してはどうかということでしたが、それについて情報があれば教えていただきたい。

事務局：公共施設等総合管理計画は全庁的に取り組んでいかねばならないとの認識のもと、市長を本部長として庁内に都市経営戦略推進本部会議を立ち上げて議論を進めています。傘下として施設やインフラを所管している所属長を構成メンバーとした専門部会を設けて、すでに3回ほど開催しています。縦割りではなく全庁横断的に意見交換をしながら組織的に意見をくみ上げて、どうしていくか、市として最終的に意思決定を、今回の会議の意見を踏まえ、市民や議会の意見を聞きながら進めています。そういった面は、引き続き取り組んでいきたいと思っています。他の部局のアンケートも参考にして、分野は異なりますが、意見があればくみ上げていきたい。しっかり勉強していきたいと思っています。

委員長：今回のアンケートを一つの材料として、今後市民の意向を踏まえて詰めていかないといけないのではないのでしょうか。それでは議題がまだ残っていますので次に移らせていただければと思います。

## ②公共施設等の現状について

### ③更新費用シミュレーションについて

・配布資料に基づき事務局より説明

<質疑応答>

委員長：公共施設の現状、今後の人口推移、財政収入の状況等を踏まえ、保有している施設の状況に関する総務省ソフトを使ったハコモノ施設とインフラ施設の更新費用シミュレーションでは将来の費用負担は現在と比べて重い負担になるとの試算が出ています。各委員からご質問やご意見があればお願いします。

委員：財政力指数について京都府平均、全国平均に比べて宇治市が良くなっていますが、京都府平均というのは小さい町村も含めてだと思いますが、一般的な市でみればどうなのでしょう。また、実質公債費比率についても同様でどうなのでしょう。

委員長：類似団体比較表をお持ちであればお願いします。

事務局：類似団体との比較は手元に持ち合わせていません。申し訳ございません。

委員長：次回までに情報提供をお願いします。

事務局：わかりました。

事務局：人口は減る、収入は減る、となっていますが収入が好転するような雰囲気・発想はないのでしょうか。この統計だけを見ると宇治市で住むのはしんどいように思われますが。

委員長：全国的にはもっと厳しいところばかりです。

事務局：地方創生の取組として人口ビジョンを策定して目標人口を掲げています。これを達成するために国や京都府と連携しながら各種施策に平成27年度から取り組んでいま

す。人口だけがすべてではありませんが、人口減少に歯止めをかけ、生産年齢人口の増加や市内企業の活性化の施策などに取り組むことで市税の増加にもつながっていくのではないかと。歳出の切り詰めだけではなく、市が持っている資産の活用にも取り組んでいかなければと思っています。

委員：経済成長の時代は人口が増えて、収入が増えて幸せだということでありましたが、これからは質の時代だと思いますので、高齢であっても自分が住んでいる地域で活躍の場があり愛着がもてるものがあれば、悲観することではないと思います。活用・連携等を考えていけばいいのではないかと思います。

委員：財政学の専門家からすると、行政が金儲けをして成功した例はないので止めておいた方がいいと思います。また採算を度外視してでもサービスを提供しないといけないものがあり、それは民間にはできません。まちの財政運営は魅力あるまちづくりをどれだけできるか、に尽きます。まちづくりは息の長い話にはなりますが、長期に渡り投資をできるのは公共部門しかできません。

財政は難しいが、財政状況を市民の方ができるだけ理解するためには情報提供の工夫が必要です。その関係性からいうと、今回の資料はフロー情報ですが、重要なのはストック情報であり、今日の資料はストック赤字の資料です。こうした資料を出して、市の状況を議論していくことが大事です。全国的に財政健全化法に定める基準を満たさないと国からイエローカードを突きつけられます。

将来リスクとそれに対する備えも把握できるような情報提供の仕方が必要となります。自治体の借金がどれだけ積みあがっているのかとともに、どのように流れているのか、またその中身がどのようなものなのかを提供する必要があります。反対に基金がどう積み上がっているのか、またその中身は何なのかを市民に提供する必要があります。

シミュレーションのインフラ部分は廃止したり縮小することはできず、ハコモノと同列にできないので、この点も市民に提供する必要があります。

委員：「〇〇して欲しい」という市民の意見があります。不足額が〇〇億円という数字は市民にはわかりづらい。住民一人当たりいくらになるのか、など市民が理解できるレベルのものを出していくのが必要ではないでしょうか。人口が減少してくると一人当たりどうなるか、などもっと感覚的に理解できるようにした方がよい。資料を市民が見せられてもピンとこない。住民とのワークショップを開催するときには住民の関心度がわからないといけないのではないのでしょうか。もっと身近なものにしないといつまで経っても伝わらない。また、この数字は甘くみられています。今まで最低限の金額で実施してきたコストです。今後はもっと高騰していくことが予想されます。そのあたりも踏まえて、危険側のリスクもあることを市民に伝えるべきです。

委員：インフラ資産について、2015年以降で一気に倍増していますが、宇治市は上下水の負担感が大きいように思いますがなぜですか。

事務局：上水道の試算時点で更新年数をすでに経過しており、更新しなくてはならないものが更新されずに多く残っているのが現状です。総務省の考え方では、試算初年度から 5 年間で均等に更新したと仮定するとなっているので、今までの積み残しで高くなっているという状況です。

委員：インフラ資産について、計画の策定にあたってどこまで議論されるのでしょうか。

事務局：インフラは、統廃合は難しいので適切な維持管理とともに長寿命化を図ることで更新費用を抑えていければと考えています。

委員：いきなり統廃合するのは難しいが、今後水準を見直すことが大事です。地域によって水準を変えることも大事です。まちづくりの道具が必要です。住民意識の改革をするいい機会と捉えています。

委員：まちづくり全体を考えるとコンパクトなまちづくりになりますが、市民が切り捨てられないようにすることが大事ではないでしょうか。

委員：この委員会で常に念頭においておくべきなのは、計画策定のプロセスでは行政も市民も視野を広げる必要があります。全体的な方向性をどうしていくのかを合意する必要があります。

アンケートの自由意見では、今ある公共施設は不便だから駐車場をたくさんつくってほしいと市民意見がありました。しかし宇治市の総合計画には、車社会から脱して公共交通ネットワークを広げるとなっています。また住民自治の推進などが唱われているため、今回の公共施設等総合管理計画の策定を契機として市民と一緒に考えて、策定していくことが必要であり、これにより皆さんが幸せになっていくと思います。

総量削減や財政問題があるので暗い話ですが、未来志向で明るく議論して欲しい。

事務局：様々な意見ありがとうございます。市民 1 人当たりの更新費用との意見については、わかりやすくするために財政状況を家計簿に置き換えてホームページに掲載していますので、資料 3 のシミュレーションも 1 人当たりにするなど、市民に幅広く知ってもらうための工夫・努力をしていきたいと考えています。広めていくことが大切だとこの場を通じてわかりました。

資料 3 でもまとめていますが、総務省のシミュレーションでこういう結果が出て、向こう 40 年は厳しい状況が見えていますが、今後も引き続き宇治市の現状に則したシミュレーションや類型別施設ごとの分類など、分析を行いながら今後の公共施設のあり方を考えていきたいと思っています。

委員が言われた市民参画・協働という観点で、公共施設等総合管理計画策定に向けて市民の意見を聞く中で、それがひいては宇治市と市民の方々の起爆剤になって、各分野においてもそういう取組ができる土壌ができればと思っています。理想的なことかもしれませんが、取り組んでいきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

副委員長：宇治市は三方向を活断層に囲まれているため、災害が発生した場合には、自助・共助・公助の順番になります。共助は地域コミュニティによるものだと思いますが、集会所は今回のアンケートで4割の方は減らすべきという回答になっています。ただし、必要なものは必要であり、弱者を切り捨てるようなことはしてはいけませんが、今回のシミュレーションを見て、非常に難しいと感じています。

委員長：それでは、議事については終了させていただきます。ありがとうございました。

【質疑終了】

### 3. 閉会

事務局：長時間にわたり活発なご議論をいただきまして感謝しています。また次回もありますので、引き続き活発な議論をお願いしたいと思います。

以上